

はずだ。あの時、シーズン最終戦(05年6月11日、ヴェネツィアVSジェノア)、A昇格を目前にしていたジェノアが(負ければプレーオフへ進まざるを得なかった為)、会長エンリコ・プレッツィオージの意向で、既に降格を決めていたヴェネツィア側に八百長を依頼。3-2で勝利して首位の座を獲得するが、直後に事実が明らかになり、A昇格が抹消されると同時に、セリエC1への降格(3ポイント減点)処分を受けている。

事の重大さ、何よりも法が定める規定(第6条=不正行為を一度でも行ったクラブは自動的に降格)に準じれば、今回の当事者(ユヴェントス以下3クラブ=ラツィオ、ミラン、フィオレンティーナ)に対する判決は、ステファノ・バラツィが示した内容に限りなく近いものであるべきだったはずだ。

事実、7月14日に出された第一審判決とは以下の通りである。

【ユヴェントス】セリエC1降格の上、30ポイント減点で06-07シーズンをスタート。04-05スクデット剥奪。05-06スクデット取り消し。制裁金8万ユーロ(約1160万円)。

【フィオレンティーナ】セリエB降格の上、12ポイント減点で06-07シーズンをスタート。制裁金5万ユーロ(約725万円)。

【ラツィオ】セリエB降格の上、7ポイント減点で06-07シーズンをスタート。制裁金4万ユーロ(約580万円)。

【ミラン】05-06シーズン獲得勝ち点を44ポイント減点し、CL出場権剥奪。セリエA残留の上、15ポイント減点で06-07シーズンをスタート。制裁金3万ユーロ(約435万円)。

上記に加えて、ルチアーノ・モジラ各クラブ首脳には求刑通りの判決が下り、また元FIGC会長(フランコ・カッラーラ)にも4年6ヶ月の追放処分が言い渡された。

それは腐りきった体制の掃蕩を求める世論を受け、司法(スポーツ裁判所)が遂に明確な答えを出した形であった。全4クラブ、被疑者とされる各首脳たちが上訴することは容易に予想されたとはいえ、「第二審を経ても処罰の内容に変化はないはず」、これが当時の圧倒的世論であった。国内の誰もが、ようやく目にした「正しい裁き」を最後まで信じようとしていたと言える。

まさしくメイド・イン・イタリア的な展開 金の力に司法までもが屈してしまった

しかし、この決定は劇的なまでに覆された。4クラブすべてが直ちに上告の手続き

を終えると、彼ら首脳たちは「(第二審で)仮に満足の行く判決を得られなければ、一般法廷にまで持ち込む用意がある」という強硬姿勢を打ち出した。

「一般法廷に進めば、判決が出るまでに膨大な時間が必要となる。当然、06-07シーズンの開幕(予定は9月10日)に影響を及ぼす。となれば、そこへTV放映権等の問題が複雑に絡んでくる。結果、何とかして事を穏便に運ぼうとするムードが国内を覆い始める。つまりは、罪の軽減が可能になるはず」。これが各クラブ首脳たちの共通した認識であった。そして、彼らは各自のファンを煽動し始めた。「無実」を以前にも増して声高に主張し、誰もが一様に第一審判決を



裁判後、多くの記者の質問に答えるガイド・ロッシ。イタリアサッカー界に本当の正義が訪れる日は来るのだろうか？

World Watcher カルチョの歴史は 繰り返された

〜モジラ事件の最終的な裁きの意味するもの〜

「不当だ」として裁きの見直しを求めた。いわゆる「クラブ愛」に訴える常套手段に出て、ファンの気持ちを痛烈に刺激することで劇的なまでの世論の逆転を図ったのだ。

そして、この策は次第に功を奏し始めた。「サッカー界全体の浄化」から単純な利己主義へ、つまりは「自分たちのクラブだけを守ること」へと視点が変化していった形だ。ファンの行動も毎日過激さを増していった。ラツィオのファンは路上(第一審判決が読み上げられた会場、ローマ市内のホテル『Parco dei Principi』前)の車両に火をつけ、フィオレンティーナのファンは数千人規模のデモを行った上でスタジアム近くの線路を封鎖するという暴挙に出た(7月17日)。

一方で、セリエAの試合放映権を持つTV局(衛星放送局SKY、地上波デジタル放送局Mediaset)が揃って、天文学的な数字の損害賠償を4クラブに対し要求。また、上場企業であるラツィオとユヴェントスの株価暴落。多数のスポンサーの撤退。一流選手たちの国外逃避。そうなれば欧州カップ戦への影響(=イタリアのクラブのランキング低下)が避けられなくなるため、結果としてFIGC自体が得る収益も激減する。

一連の危機感が国内で日増しに高まる中、妥協を探るムードが一気に高まりをみせていたのは、ここがイタリアという国である以上、半ば必然であったのかもしれない。そして、そうした人々の不安を巧みに利用し始めたのが国内の政治家たちであった。とりわけ、先の総選挙で敗れた政党複数(ミラン会長シルビオ・ベルルスコーニが党首を務める「フォルツァ・イタリア」以下、4月9日の選挙以前は連立与党勢力であった者たち)のやり方は巧妙だった。盛んに4クラブのファン側に立った発言を繰り返し、「W杯制覇」という事実を大義名分とする「恩赦」の要求までも、彼らは執拗に繰り返した。そして、クルマを炎上させたラツィオファンの行為を「正当な抗議手段」と公に発言する政治家までが現れた時、もはや第二審の結末は、容易に予測できる事態となっていた。世論は権力者たちの思惑通り、「劇的なまでに」覆っていた。その覆った世論を再び封じ込め力などイタリアには無い。そう諦めざるを得ない状況に我々は立たされていたのだ。

こうして7月25日を迎え、以下のような判決を見た。

【ユヴェントス】セリエC1降格回避。セリエB降格の上、17ポイント減点で06-07シーズンをスタート。04-05スクデット剥奪。05-06スクデット取り消し。制裁金12万ユーロ(約1740万円)。

【フィオレンティーナ】セリエB降格回避。A残留の上、05-06成績から30ポイント減点。CL及びUEFA杯出場権剥奪。19ポイント減点で06-07シーズンをスタート。制裁金10万ユーロ(約1450万円)。3試合のホームゲーム開催禁止。

【ラツィオ】セリエB降格回避。A残留の上、05-06成績から30ポイント減点。UEFA杯出場権剥奪。11ポイント減点で06-07シーズンをスタート。制裁金10万ユーロ(約1450万円)。2試合のホームゲーム開催禁止。

【ミラン】05-06シーズン成績から30ポイント減点し、CLへの直接出場権は剥奪される

も予備予選出場可。セリエA残留の上、8ポイント減点で06-07シーズンをスタート。制裁金10万ユーロ(約1450万円)。1試合のホームゲーム開催禁止。

まさにメイド・イン・イタリア的。そこには、極めて不透明な判決が現実には我々の目の前に並べられていた。第6条の条文は一体どこへ行ったのか？ 昨年のジェノアが受けた制裁は一体何であったのか？ 例えばフィオレンティーナ(膨大な資本を誇るデッラ・パッレ)に対する罰金1500万円弱を、裁いた側は本気で制裁だと捉えているのか？ こうした問いに今、誰一人として答えを返せる者はいない。裁いた側のトップ(ピエロ・サンドゥッリ)は、ただの一度も独自の捜査を行っていない。単に、僅か9日間で「見直し案」を決定したに過ぎない。

これは信じ難いまでにずさんな裁きであり、誰もが「こうなってしまった理由」に改めて納得せざるを得ない。上告審を受け持つ司法機関(スポーツ裁判所内、高等裁判所)の構成員は、その全てが旧体制のままなのだ。つまり、第一審で4年6ヶ月の追放処分

を受けた元FIGC会長、そのフランコ・カッラーラに任命された裁判官たちが今回の審判を行ったということだ。

ガイド・ロッシが暫定コミッショナーに着任した当時(5月16日)、この高等裁判所構成員には嫌疑がかけられていなかった。よって体制の一新をコミッショナーは(意図しながらも)出来なかった。そこに一抹の不安を残した裁判で、結果、やはり大方の予想通り、フランコ・カッラーラの処分は大幅に軽減。追放処分は撤回され、8万ユーロ(約1160万円)の罰金だけに留められた。

これは、殺人者が自らを裁く人間を指名した格好だ。しかもこの下手な芝居はその後、本誌が発売される頃には、ユヴェントスのセリエB降格までも撤回されそうな空気が高まっているのだ。

7月14日に第一審判決が下されてから、わずか1ヶ月である。この1ヶ月の間に茶番劇はシナリオ通りに進み、結果、スキャンダルの元凶であるユヴェントスのセリエA残留が決まるとなれば、さすがのイタリア国民も開いた口が塞がらない状態だ。

結局、第二審で判決が覆ったことで、ミラ

ン以外の3者にそれまで以上の「欲」が生まれ、その「欲」を司法が受け入れてしまったということである。

結果、「この世界から速やかに抹殺されなければならない」どころか、連中は強かに生き延びた上、新たなトリックを法に絡ませる戦略を成功させたのだ。

昨シーズン途中、取材を申し込んだ某選手にこう言われたことがある。「幾らだ?」。写真の撮影で彼は、「僅か」1500ユーロ(約20万円強)の報酬を最後まで要求し続けた。5億円を遥かに超える年俵を手に入れている選手が、である。しかし、そのお金を我々は遂に払わなかった。そして今、その選手への取材が絶対に出来ない状況にある。つまり、これが現実なのだ。首脳たちのみならず、選手らの大半もまた金の亡者に成り果てた結果が、その象徴が今回の裁判であったということだ。

結局は金の力に司法も屈した。すべては権力者たちの描いたシナリオ通りに進められた。単にそれだけのことだ。そう言ってしまうと得ない今、それこそがイタリアサッカー界が直面している紛れもない現実なのだ。

